

きつと大丈夫

明日へ踏み出す物語

「お姉ちゃんは僕と違ってしっかりしているし、頭もめっちゃいい。運動はできないけどね」

昨年秋に行われた東京デフリンピックの陸上競技走り高跳びで5位に入賞した佐藤秀祐選手(21)＝平林金属＝が笑顔で話す。

三つ違いの姉千優さん(24)は、大学を卒業後、岡山県立誕生寺支援学校(岡山県久米南町)で教師をしている。

2人とも聴覚に障害がある。

小さい頃の千優さんについて「よく寝る子。おおむけになり、後ろにハイハイして進んで『すごい技術だ』と笑っていた」と母の美穂さんは振り返る。

ただ言葉が遅かった。千優さんが生まれた2001年5月は新生児聴覚スクリーニング検査が始まる直

⑤ 姉弟に聴覚障害

感じた優しさ、私も

前。聞こえていないことが分かったのは2歳10カ月ない。

月の時だった。秀祐さんは検査では問ったのか。「いろいろ指題がなかった。救急車と摘されたけれど、原因かアンパンマンといったは分からない」と美穂さん。単語をしゃべっていたんは話す。2人は人工内耳や補聴器をつけている。なぜ2人とも難聴にならなかって、おしゃべりするのが楽しかった」と千優さんが教えてくれた。

その頃から「人の役に立ちたい」と思っていたそう。中学2年の弁論



仲のよい佐藤千優さん(右)と秀祐さん。2人とも聴覚障害がある(提供写真)

千優さんが小学生の大会の原稿に、その理由頃、美穂さんは仕事中心があった。

「私はいつも助けられなくなった。千優さんは岡山市立岡山中央小(同市北区弓之町)の難聴がよく聞き取れないと学級に通っていた。自宅からバスで市中心部まで出る。乗車中やバス待ちのベンチで宿題をした。家に帰って秀祐さんの面倒を見なければならぬ。私はうれしくなり

中(同蕃山町)に進学すると国語、英語、数学は難聴学級で、それ以外は他の生徒と同様に学んだ。

人懐こい性格からだろうか。「同じバスに乗るおぼあちゃんと仲良くしたいと思うようになったのです」

(斎藤章一朗)